

もっと知りたい 介護保険制度

特集「地域って何だろう」
住みなれたまちで
生き生き暮らすには

特集「地域って何だろう」

日本は急速に高齢社会に突入したため、介護の負担は家族、特に女性を圧迫し、地域の交流が弱まってきたことも重なって、本人や家族が孤立してしまいう面も問題でした。

介護保険制度実施から1年が経ち、目黒区介護保険事業係長の岩本氏を講師に迎え、目黒区の実情を中心にお話を伺いました。(この会は13年3月に行なわれました)

介護サービスを受けるには

40歳以上の人は保険料を納めますが、基本的には65歳以上になって介護や支援が必要になった時に申請し、認定されて初めてサービスが受けられます。

状態が重くなくても、ちよつと足腰が具合悪くなったというようなきつかけて申請してもいいのです。介護保険によるサービスが受けられるのは要支援(要介護5段階)と認定された場合だけです。自立と判定されても区の制度で、住宅改修やホームヘルプが受けられる場合があります。

訪問調査は区職員が

申請すると、身体・意識・医療等の85項目(全国共通)について訪問調査がありますが、民間委託する自治体の多い中で、目黒区は遠隔地などで一部の委託を除き財政難でも頑張っています。この結果をコンピュータに入れて全国一律の基

準でみたものが第1次判定になります。

これに主治医の意見書、訪問調査の際の特記事項を合わせて第2次判定が行なわれ、認定となります。申請・認定は地区ごとに行なわれますが、自由が丘住区のある西部地区では他に比べて高齢人口が多く、申請件数もたくさんあります。

認定(サービスを受けるまで)

要介護・要支援と認定されたら、本人や家族の希望するサービスを選び、利用計画(ケアプラン)をたてます。自分で作ることもできますが、専門家に依頼したほうが簡単でもあり、自己負担なし(全額保険給付)で作成してくれるので、目黒区でも殆どの利用者がケアマネージャーに頼んでいます。事業者名簿から自分で探すのですが、まごつく人も多く、もっと情報ほしいという声がありました。

分からないことは何でもケアマネージャーに質問して考えをきちんと伝えて下さい。

短かすぎない? 介護サービスの時間

要介護推計時間は、施設入所者のタイムスタディを基本に厚生省が割り出したもので、一般家庭の状況との差は大きいと指摘されています。国は在宅の調査を開始しており、今後少しづつ変わる可能性もありそうです。

介護保険サービスを受けるまで(目黒区の場合)

- ①要介護認定申請
(本人や家族が各地区の保健福祉サービス事務所へ)
- ②要介護認定
調査員(区の職員)による訪問調査…第1次判定
+主治医の意見書・調査員の特記事項
介護認定審査会…第2次判定→認定
- ③サービス利用
ケアプランの作成→在宅サービス、施設サービス



サービスにかかる費用は?

財源負担割合は決まっております。公費50%(国25%・都12.5%・区12.5%)・保険料50%の割合です。国の負担する25%のうち調整交付金は75歳以上の高齢者率が高い、収入が低い等の理由で変動(全国平均で5%)。目黒区の場合、75歳以上の高齢者人口は高いが所得階層の高い人が多く、4.4%・4.5%くらい。

どんな施設があるの?

特別養護老人ホームでは、高齢者人口に対する区民枠の確保率は23区でトップクラスで、国の基準も大幅にクリアしているものが入所待ちも多し。ショートステイは現在のところ空きもある状態だそうです。デイサー

お話を聞いて思っています

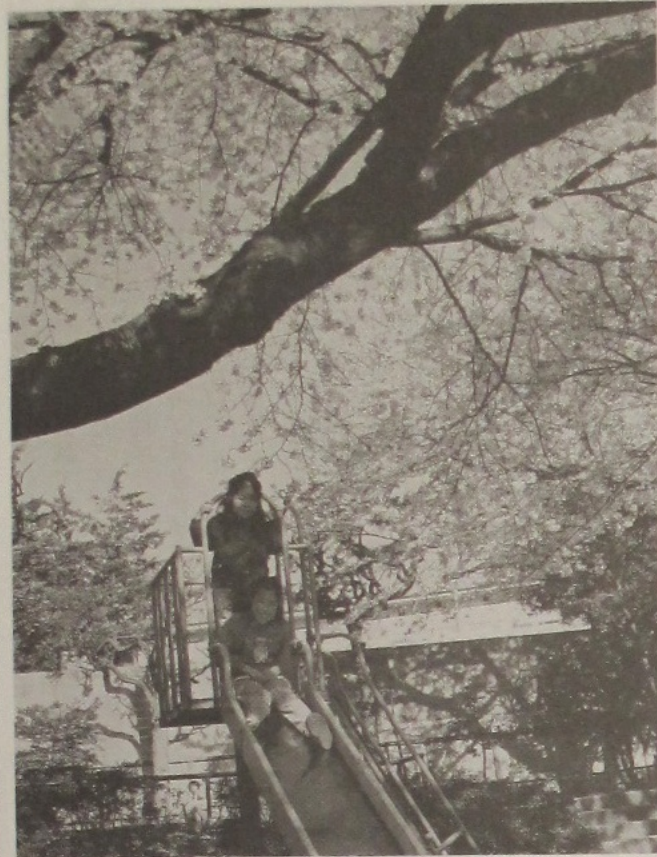
私はこのつたない質問にも丁寧に答えて下さり、本当によくわかりました。介護保険制度も始まったばかりですが、2年後には見直しも予定されています。要介護時間や考え方、サービスの内容や負担軽減の問題、ケアマネージャー・ヘルパーの仕事がもっと社会的に評価されるべきことなど、制度をより使い易く良いものにしていくためには、私たちも積極的に活動したいです。利用者が家族、地域の人々が行政と率直に意見を交換し、協力しあっている場として、住区住民会議も有効に使えないでしょうか。少しずつ工夫を積み重ねていければきっと何かできそうです。

一滴

3月11日
総合防災訓練
救急隊の練習
コーナーでは、広げられたシートの上に練習用の人形が並んでいる。
生後数ヶ月といった感じの大きさの人形で心肺蘇生を習った。2本の指でトントントンという感じで心臓を押す。人工呼吸は鼻と口を自分の口でおおい、息を吹き込む。
心肺蘇生の指導を受けているのは、これで4回目だけれど、いつもいざというとき、お役に立てるようになりたい、必要な場面がない様にと願う。
トイレの組立てもこれで2回目。組立てを覚える事も大切だが、私はそこで一緒に作業した人たちを覚えておこうと思う。本当に家庭に避難した時、「じゃあ、私たちがトイレを組み立てましょう」と声を掛け合える人がいることも大切だと思うから。

渡邊 みどり (自由が丘在住)

総合防災訓練に参加した人たちはみんな思っているはず。いざという時力を合わせてがんばりましょう。と。



爛漫の桜の下で(自由が丘公園にて)



防災訓練を終えて

3月11日、恒例となった総合防災訓練が、緑ヶ丘小学校校庭で開催されました。今年のテーマは「防災倉庫の資機材にふれてみよう」です。

晴天とはいえ、強風吹き荒れた日だったので、どの位の人が集まるのか心配でした。受付順に胸に名札をつけ、10人1グループで、課題をこなしていきます。災害時には、知らない人でも協力し合

と大変美味しい豚汁を食べる総合訓練で無事幕となりました。区役所、消防署、消防団その他多くの方々のご協力が結実した1日だったと思います。参加出来なかった方々にも防災訓練の大切さをお知らせしようと、コミニティセンターに記録写真展示を試みしました。

13年度防災委員会はその方向性を定めるうえで、「地域は何を求めているのか」を模索し続けなくてはいけないと思いましたが、

前半は目黒区のみどり公園から、立山さんが鳥のお話をして下さいまして、質問を交えながら、和気あいあいと進行しました。

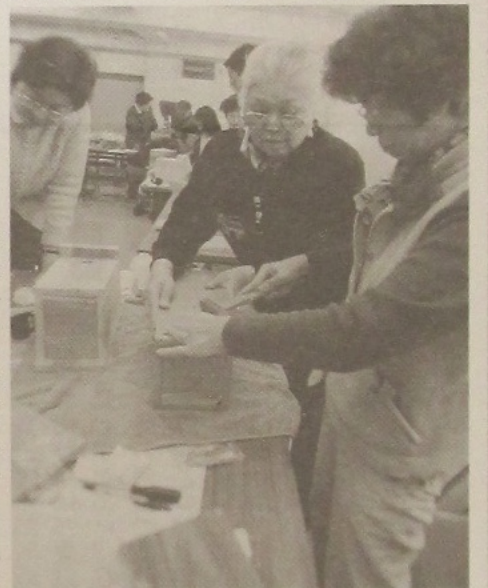
身近な鳥の話と巣箱作り

2月17日の当日は春の陽気のような穏やかな日で、小学生から年配者までの混合チームで工作を楽しむことが出来ました。環境委員会の最後の行事を無事終了することができ、ありがとうございます。

終わった後、参加者の方から次のようなお礼の言葉をいくつか頂きました。「楽しい企画に参加できたことが嬉しかった」「このような素晴らしい企画があったことを今まで知らなかった」「久しぶりに汗をかいた」

「木工は楽しいですね」小学生は自分の学校や公

今回のはチュウリップの型抜き窓から和紙の彩りの覗くカードと、どこのお宅にもあるきれいな紙でカードを作りました。講師のちよっとしたアドバイスで色バランス



鳥に興味を持ってくれたりを通して、環境問題や

ペーパークラフトで楽しく

平成12年度の新しい企画を1月29日に開きました。何回も相談を重ね、材料をそろえて準備を整え、参加者を募り、ほぼ予定人数が集まりました。

私の家で介護保険を利用しているのは91歳の母。デイホームとショートステイでお世話になっています。母も年を経るに従って体の自由も不意になり、すべてに手数がかるようになってきました。肉親とは言え介護の重圧感で心のゆとりがなくなり、ストレスもたまってきます。このような時、ほんとうにデイホーム、ショートステイ等は、ホッと一息も二息もつけるのです。殊にお世話いただく職員の人達の、細かい配慮と誠実さにその都度心を打たれ慰められます。また地域の人達と関わりをもち、オープンにすることに

車椅子をプレゼント 地域活動委員会

恒例になっている年2回のリサイクルバザーの収益で目黒区社会福祉協議会に車椅子を寄贈し、喜んでいただきました。地域住民と商店街の方々との委員会の協力のよって小さな力が実現しました。



アルミ製の軽量タイプで動かしやすいものです。花の季節には車イスの利用者が多く不足気味になるとか。桜を見に出かけた方もいらしゃったことでしょうか。地域交流の場として皆様の協力を得て長く続けたいと願いながら四台目の車イスを目指して頑張りたいと思います。



事務的にも未だ試行錯誤の面がありますが、大分改善されつつあります。例えばバリアフリーの施設改善費も1割の負担で出来ます。また一番身近なオムツが、今までは寝たきりの人だけに長方形のオムツが支給されていましたが、4月から要介護3以上の人に、パンツ型など沢山の種類から選べます。これは心のこもった改善です。

お知りせ 目黒区交通安全功労者として、平成13年3月、自由が丘住区住民会議からは、宮本京子さんが表彰されました。

あつと言う間に1年が経ち、驚くばかりです。微力ながら、みなさんに読んで頂くにはどうしたらいいの?と工夫を重ねてきましたが、如何でしたか?これからもどうぞよろしくお願致します。

私達とともに 消防団活動をしませんか

目黒区消防団第10分団です。日ごろは消防・防災活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。消防団は現在、団員の数が定数を満たさず、また高齢化が進んでいます。このままでは住区皆様の防災へのご期待に添えないのが現状で、どうしても新しい力が必要です。

本年1月から6月まで「消防団員募集キャンペーン」を開始しました。「我が町を我が手で守る」その心意気が団員になる素朴な動機です。隣の家が火事になる、家の人が突然心肺停止になる、そのときあなたはただ見ているだけでしょうか。やはり助けようと思いませんか。その気持ちで組織になり、消防団になるのです。また、私は会社員だから、そういう活動はちょっと!と言われる方がいますが、当分団では定数42名中、会社員が8名います。女性団員も主婦・保母・学生4名います。各団員は自分で時間管理をして活発な活動をしています。「我が町を我が手で守る」という気持ちがあれば、何の心配もありません。

私達とともに消防団活動をしませんか。目黒区内に居住または勤務する18歳以上の心身ともに健康な方、それだけが条件です。自由が丘住区は第11分団、第10分団にまたがっていますので、消防団員、消防署(八雲出張所、大岡山出張所)に気軽にご相談下さい。

どうぞ多数のご参加をお待ちしています。

目黒消防署 (☎3710-0119)

介護保険を利用して

では問題ないとは言えませんが、重度のため沢山のサービスを受けなくてはならない家庭は大変な支払いとなります。このため、市町村によっては対策を見直しはじめたようです。必要なことでしょうか。

冬(81)号の記事中、自由が丘学園とあるのは、自由ヶ丘学園の誤りです。大変失礼を致しました。

発行 自由が丘住区 住民会議

編集 広報委員会

(3718) 1195

